

〈本著作物について〉

本著作物の全部または一部を著作権者および株式会社岩波書店に無断で複製・転載すること、
および放送・上演・公衆送信（ホームページ上への掲載を含む）などをすることを禁じます。
また、本著作物の内容を無断で改変・改ざんなどすることも禁じます。
有償・無償にかかわらず本著作物を第三者に譲渡することはできません。

ぼくたちのまちづくり4

楽しいまちなみをつくる

福川裕一文 青山邦彦 絵



岩波書店

もくじ

原っぱが消える！	3
学級新聞の編集会議	11
町じゅうが大きさわぎ	18
みんなの住みたい町	27
みんなも建築家	37
テレビに出た	60

原っぱが消える！

遊び場がなくなる

みんなどうしたの？ うかない顔をして。

「きのう、ぼくたちの原っぱが閉じられてしまった。」

ああ、昔、酒蔵さかぐらがあって、今は君たちの遊び場になっていた土地
だね。閉じられたって？

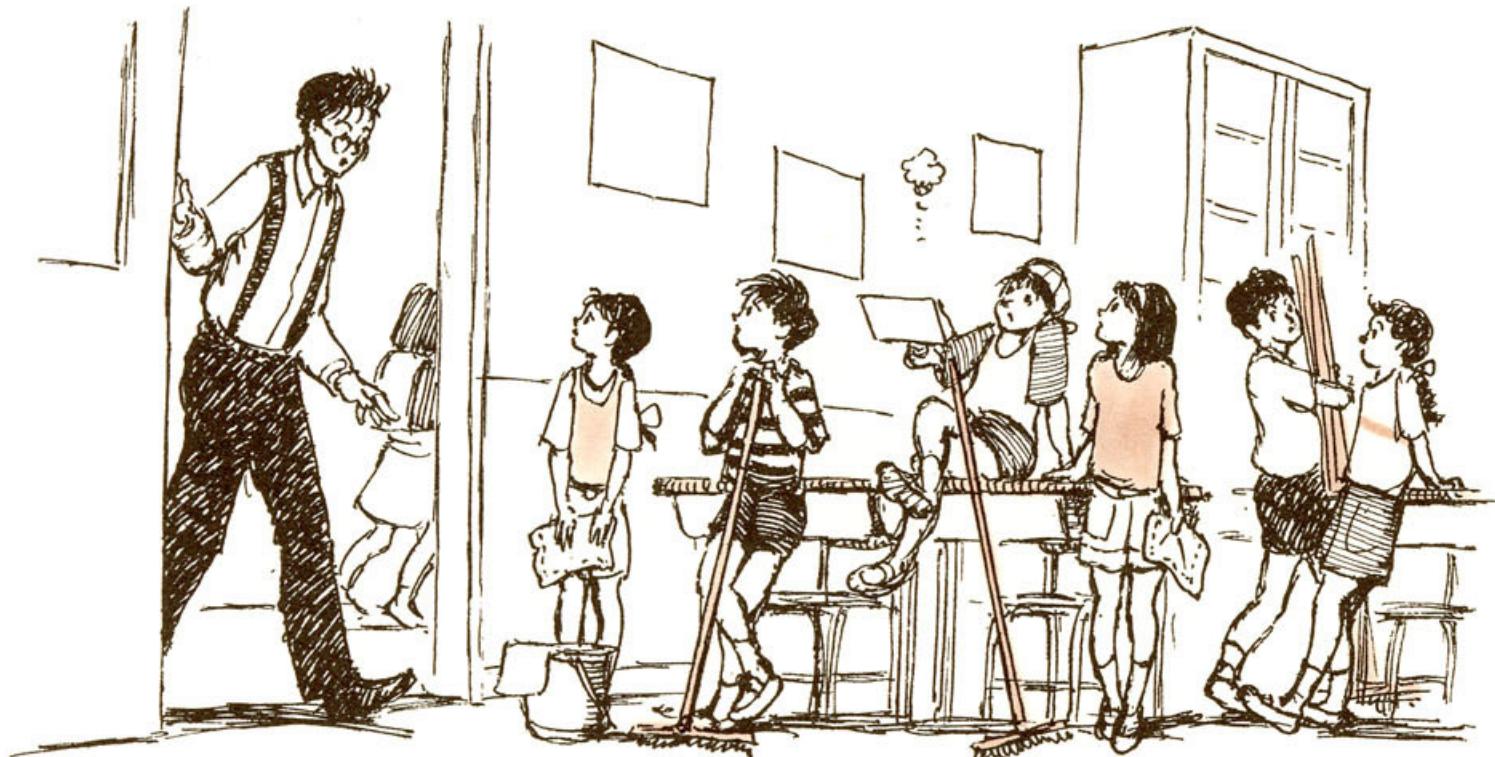
「おじさんたちが来て、へいで囲ってしまった。」

「マンションができるんだって。」

遊び場ならほかにもあるだろう？

「ああいう、広い原っぱはないよ。」

「公園だと野球やサッカーができない。」



そりや残念だ。でもしょうがない。君たちの土地じゃないもんな。

「でも先生、困っているのはわたしたちだけじゃないみたい。」

「まわりの人が旗をいっぱい立てている。」

「[高層マンション反対] って書いてあった。」

「幼稚園に、〔園庭から日当たりをうばうな！〕って看板が立っていた。」

そういえば、そばに幼稚園があるな。まわりもほとんど低層の住宅や商店だ。どんなマンションが建つんだろう？

「先生、ちょっと見に行こうよ。」

だって、まだマンションは建っていないわけだろう？ 行ったってわからないよ。

「でも、行けば何かわかるかもしれない。」

「行ってみようよ。」

ウーン、ま、そんな遠くでもないし、行ってみるか。

どんなマンションが建つんだろう

やあ、すっかり囲われている。急に遊び場がなくなってしまった、君たちもショックだっただろう。

「先生、あそこに何か書いてある。」

ああ、お知らせの看板のようだ。どれ、行ってみよう。

「[建築計画のお知らせ] だって。」

「これでどんな建物が建つかわかるんですか？」

ああ、だいたいはね。どれどれ、建物の名称は「第4スカイマンション」か。

「建物の…、えっとこれはなんと読むんですか？」

ようと(用途)と読む。建物の使い道のことだ。

「用途は共同住宅および店舗きょうどうじゆうたく てんぽだって、共同住宅って、マンションのことでしょ？」

そうだ。ほかには何がわかる？

「戸数が住宅346戸、店舗10戸。」

「敷地面積が6480m²、次は…、これは何ですか？」

棟数(むねすう)だ。建物の数のことさ。棟は一つだけらしい。

「建築面積が2520m²。建築面積って？」

ああ、建物が地面に接している部分の面積、つまり1階の面積だ。

「次は、階数が14。14階建てっていうこと？ それから……。」



「^{の ゆか}延べ床面積が 25632 m² だって。延べ床面積って？」

建物の 1 階から 14 階までの床面積を全部足しあわせた合計の面積のことさ。

「高さが 40 m.」

「^{こうぞう てつこつ}構造、鉄骨造.」

「着工予定、2001 年 8 月だって。2 か月後だ.」

「会社も書いてある。青空建設だ.」

「どんな建物か、あんまりよくわからなかつた.」

「きっと大きな建物だよ.」

「あつ、ゆかりちゃんのおかあさんだ.」

「こんにちは。みんな集まってどうしたの？ あら、先生まで.」

いやあ、この子たちが遊び場にしていた原っぱにマンションが建つといってさわぐものですから。どんな建物が建つか調べようといって連れてこられました。

「そうなんですよ。わたしのうちはこの敷地の東どなりなんですけどね。2 週間ほど前、建設会社の人たちによる説明会があつたんです。それで、もう大きすぎ。ここしばらく、近所ではマンションの話でもちきりなんです.」

みなさんは、どういうふうに考えておられるんですか？

「そりゃ反対しています。だってものすごく大きなマンションなんですもの。うちも少し日当たりが悪くなるんです。でも、^{ほう}法^{りつ}律^{いはん}には違反していないんですって。とても心配しています。とくに幼稚園は午前中、日が当たらなくなりそうでたいへん.」

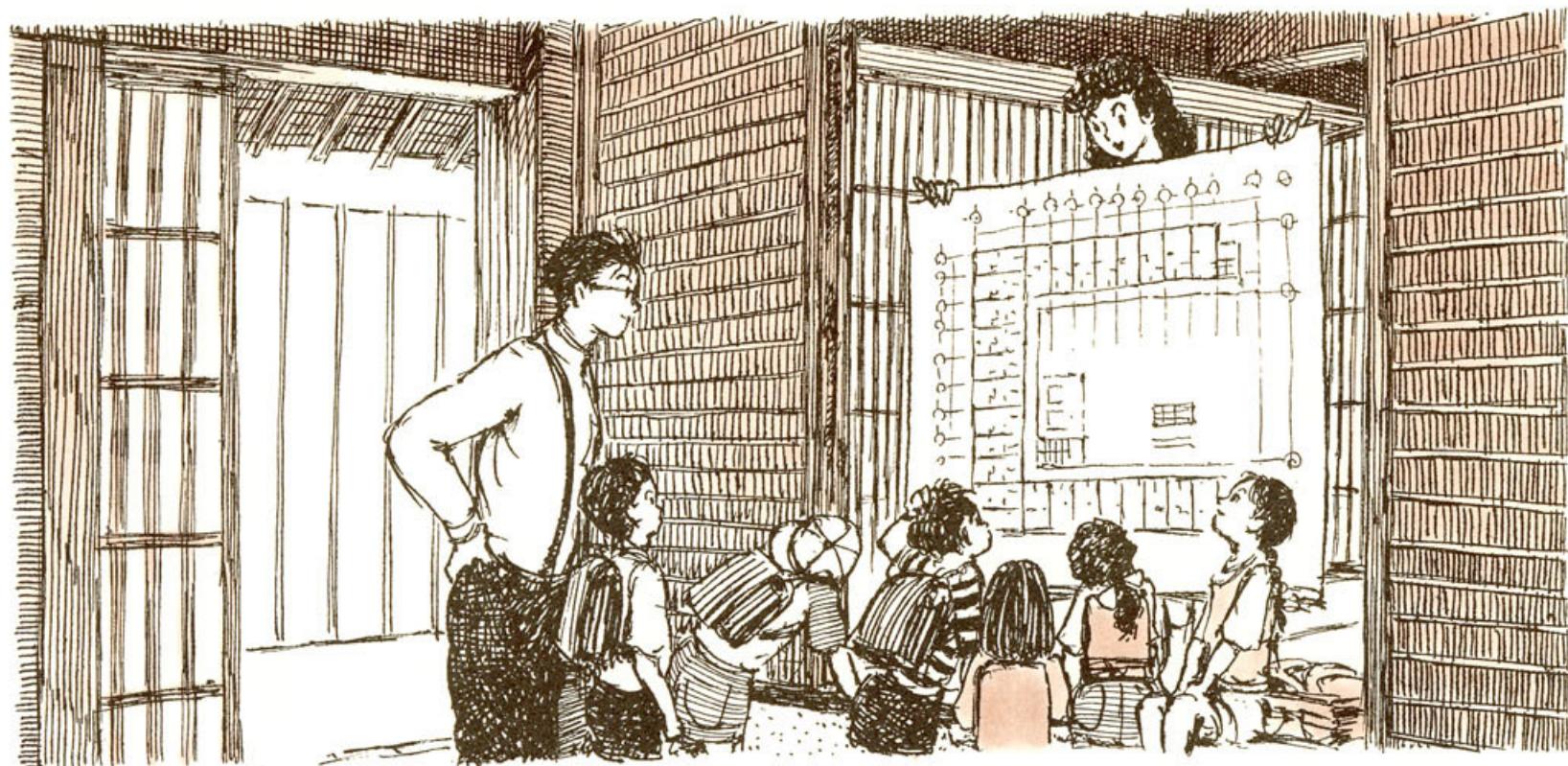
「じゃ、ゆかりちゃんのおかあさんは、どんなマンションが建つか知っているんですか？」

「ええ、説明会で図面をもらったわ。」

「どんなマンションですか？」

「どんなって、14階建てで、とても大きいの。このあたりは低い建物ばかりでしょ。いぶつ異物ね。えーと、口で説明するのはむづかしいから、図面をあげる。先生とよく研究して。これから家によってくれる？ 先生いいですか？」

ええ、ぜひ。



「図面はむづかしい。」

「ただ見ているだけじゃわかんない。」

「そうだな。もけい模型を作てみるか。」

「模型？ 模型ぼく得意！」

「おもしろそ。」

問題はどんな縮尺で作るかだな。比べるためにまわりの家も作ったほうがいい……。よし、あしたの放課後に作ろう。地図と材料は先生が用意していこう。

模型を作ったみた

「できた。やっとどんなマンションかわかった。」

「大きいね。」

「うん、とても大きい。」

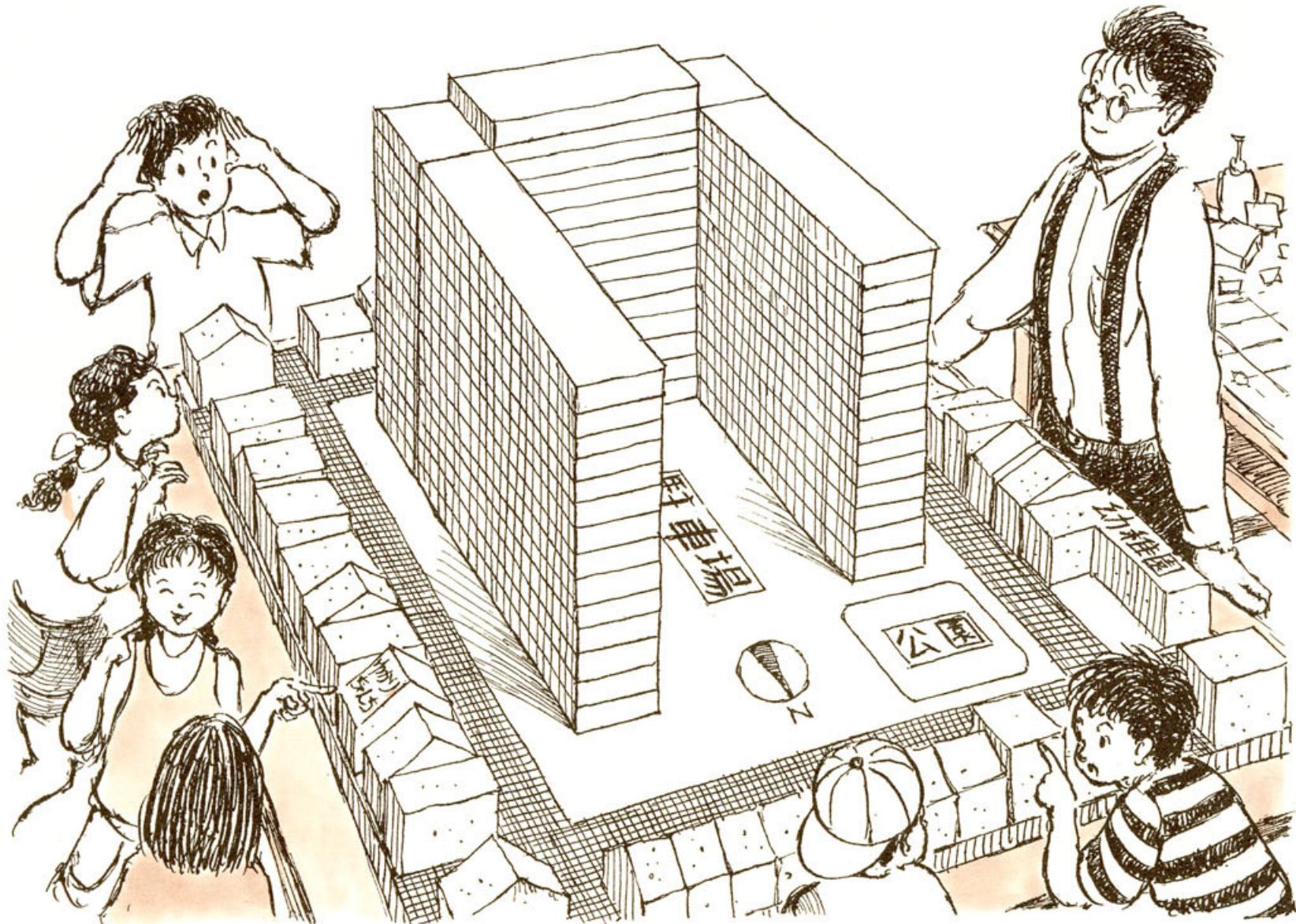
「まわりの家から見ると、ゴジラみたいに大きい。」

「ゆかりちゃんちはどこ？」

「ここだ。マンションととなりあっている。」

「幼稚園は？」

「あれっ、幼稚園の前は少しあいている。」



ああ、小さな公園が作ってあるようだ。でも午前中、日がさしにくくなることには変わりない。これでは、先生が外で遊びなさいと言っても、園児たちはおもてへ出たがらないだろうな。

「どうしてもっと小さな建物にしないのかな？」

「たくさん家を作つて売つたほうがもうかるから。」

「でも、たくさん作るとお金もかかるよ。」

「よくわからないな。」

住む人にとってはどうなのかな？

「わたし、高いところに住んでみたい。ながめがいいでしょ。」

「ぼくはマンションの8階に住んでいる。でもぼくの家の前は別のマンションだ。」

「このマンションは、まわりに高い建物がないからながめがいいよ、きっと。」

「となりに高いマンションが建つたらどうなるの？」

「あっ、そーか。でもしばらくはだいじょうぶだ。」

「ぼくはやっぱり低いところに住みたい。」

なぜ？

「だって、すぐ遊びに行けるもん。」

「低いと、道から、遊びに行こうって、さそえる。」

「うちでは、マンションへ^{うつ}移るかどうか話し合ったことがある。でも、おばあちゃんがどうしてもいやだって。」

「エレベータがきらいなの？」

「うん、それもあるけど、家にいる時間が長いから、すぐ庭に出たりできるほうがいいって。おかあさんもおばあちゃんの意見に賛成して、それで引っ越しをやめた。」

おかあさんはなぜ賛成したの？

「おかあさんもそのうちおばあちゃんになるからだって。」

それは正しい。でも、マンションにもいい点があるんじゃないかな？

「少ない土地にたくさん的人が住める。」

「土地が節約できる。」

「^{ねだん}値段が安い。」

「カギ一つででかけられる。これはおかあさんの意見。」

「地しんや火事に強い。」

「ふつうの家だって、強くできる。」

「そーかー、わからないことが多い。」

もっといろんな人の意見を聞いてみる必要があるようだ。どうだい、いろいろ調べてみて、それを今度の学級新聞にのせることにしては。

学級新聞の編集会議

いろいろな問題

「今から学級新聞の編集会議を開きます。今度の特集はマンションです。じゃあ、調べてきたことを報告してください。」

「ぼくたちは、不動産屋のおじさんに話を聞いてきました。おじさんはマンションに賛成だと言っていました。理由は、ここは土地が高いから、マンションにしないともったいないからだって。それに、商店街のお客さんも増えるからいいって。」



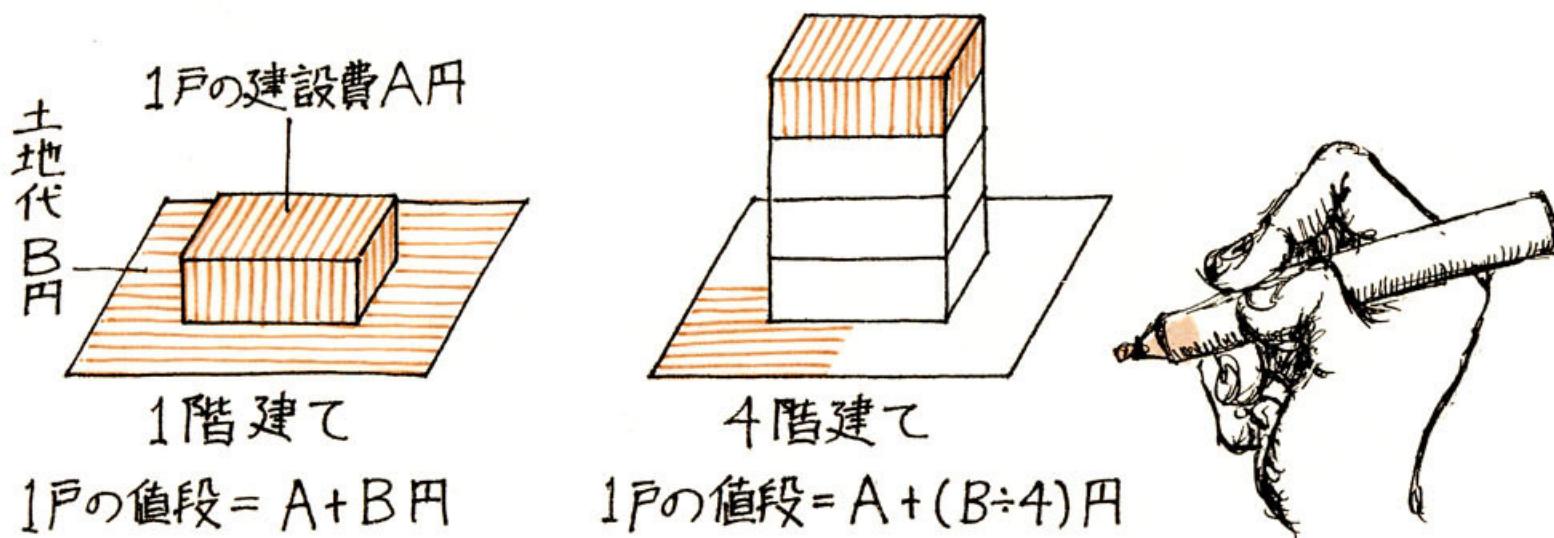
「まわりの人の反対のことは？」

「土地がせまいんだから、おたがいさまじやないの、だって。それに公園ができるし、道が少しだけど広がるし、いいじゃないかって。だけど、あのマンション計画は少し大きすぎるかもしれないね、とも言っていた。」

なぜ大きな計画になるかは聞いた？

「うん、この前みんなで話題になったから聞いた。えーと、マンションの値段は、建物を建てる建設費と、土地の値段を足したものです。1戸あたりの建設費は、マンションの戸数を増やすてもあまり変わらないけど、1戸あたりの土地の値段は、戸数を増やすと安くなります。そうすると、大きなマンションほど、値段が安くてよく売れるようになるし、もうけも大きくなります。」なるほど。とくに土地の値段が高い場合は、マンションは大きくしないと値段が高くなってしまう。そうすると売れ行きも悪くなる。もうけも減る。そういうことだね。

「不動産屋さんのことはこれでいいですか。では、次をお願いします。」



「わたしたちは、ゆかりちゃんのおかあさんと幼稚園ようちえんへ行ってきました。園長さんのほかにも近所の人が来ていて話を聞くことができました。おかあさんたちはみんなマンションに反対していました。反対の理由は…、えーっと、なかなかうまく説明できない。」

日当たりが悪くなるっていうんじゃなかったっけ。

「うん、それはそうだけど……。」

「そうだけど？」

「そうだけど、日当たりが悪くならない人も反対していた。」

「じゃ、高いところから家の中をぞかれるからだ。」

「うん、そういう理由ならほかにもある。もらった紙に書いてある。えーと、あっぱく感でしょ、風害の問題でしょ、工事中のでんぱしそうがい そう音としん動でしょ、電波障害ちゆうしやじょう でしょ、駐車場の問題でしょ…、だけど、それだけじゃないんだ。」

先生がかわって説明してみようか。ここは古い町だ。さかぐら 酒蔵さけくら がたくさんあった。しかし、日本酒の人気がなくなってきて、お酒をつくる酒造家しゅぞうか が工場や店をたたむようになった。こんどのマンションも酒蔵のあとに建つんだよね。酒蔵は、大きな建物にはちがないが、高さはそんなに高くない。まわりの家より少し高いくらいだ。大きな面積をしめているけれど、いくつもの棟むね からなりたっている。今度のマンションのように1棟ではない。それに木造だ。まわりの町家まちや といっしょになって町並みまちなみ をつくってきた。みんな、そういう町の中で育ってきたんだ。そういう町の中で、四季おりおりの行事も行われてきた。そうだね。

「もうすぐ地蔵盆じぞうぼん だ。」

そう、お地蔵さんは街角に置かれている。町並みとお地蔵さんは切りはなせない。

そこへとつぜん、高くて大きいコンクリートのマンションが建つことになった。みんな、そのことによって今までの町のよさが失われるのではないかと心配している。だから、日かけになる時間とかではない、数字では計れないことを問題にしている。

「園長さんが、「町並みが変わると町が変わる。だから町並みがだいじだ」ってさかんに言っていた。」

「そのときは、よくわからなかった。」

君たちが模型を作ったときも、同じようなことを感じたのではないか？



法律にはあっている

「では、もう一つの取材班、報告してください。」

「ぼくたちは市役所へ行ってきました。市役所の建築指導課と
いうところの人に話を聞きました。建築指導課は、このマンションを建てるいいかどうかを決めるところです。このマンションは
法律にあっているそうです。」

「どうして？」

「まわりはほとんど低い建物だよ。」

「待って、いま説明するんだから。えーと、マンションの建つ
ところは商業地域といいます。容積率400パーセントの建物が
建てられます。」

「しょうぎょうちいき？」

「ようせきりつ？」

「わたしたちの市の中は、商業地域とか、住居地域とか、場所ごとに決まっているので、建てられる建物の用途や大きさが決められています。こんどのマンションのところは商業地域。商業地域では、大きな工場以外は何を建ててもいいんだって。マンションもオーケーよ。」

「ようせきりつは？」

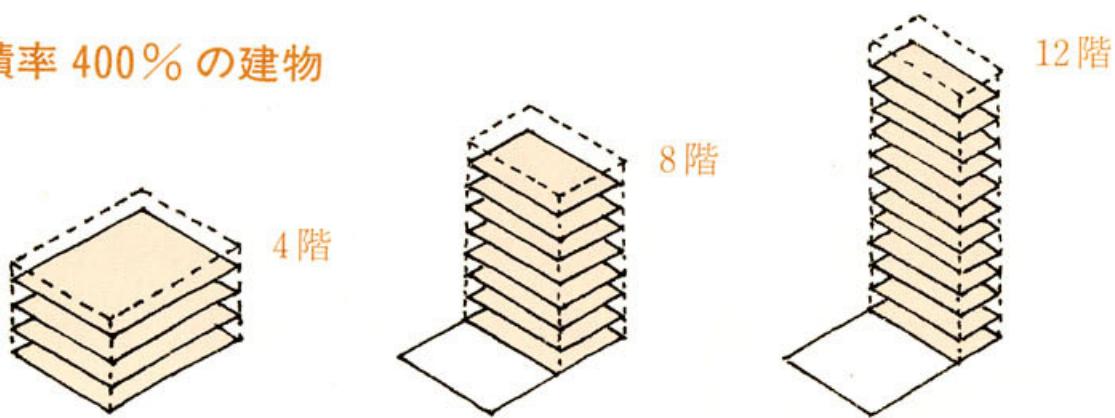
「容積率というのは、建物の大きさのことで、延べ床面積の敷地面積に対する比です。」

「延べ床面積と敷地面積は、お知らせ看板に出ていた。」

「そう、敷地面積が 6480 m^2 、延べ床面積が 25632 m^2 でした。」

「じゃ、容積率は、 $25632 \div 6480$ だ。」

容積率 400% の建物



敷地いっぱいに
建てる

「割り切れない。3.95555…。」

「パーセントで言うんだって。」

「395.555 パーセント。」

「400 パーセントより低いや。」

「でもぎりぎりだ。」

「だから、法律にはあってるの。」

「ふーん。」

「建設会社はマンションを建てる権利があるんだ。」

「じゃ、なぜ近所の人に説明をしているのかな？」

「うーんとね。それも聞いた。とつぜん高い建物が建つとみんながおどろくから、前もってよく説明するようになって、市役所が建設会社を指導しているんだって。」

「説明のときに、もっと低くするようにたのんだら、してくれるのはかな。」

「そこまで聞いてこなかった。」

会社によるだろうね。でも大きく変えることは期待できない。法律的には建てることができるんだからね。

「まわりがほとんどが低い家なのに、法律はどうしてそうなっ

ているんですか？」

「それは聞いた。この一帯は町の中心で商店が多いし、酒蔵が
あった。つまり、商業と工業と住宅が入り交じった地区だった。
それで商業地域になったんですって。」

「容積率は？」

「それは、法律で商業地域は400パーセントと決まっているん
だって。」

正確に言うと、最低が400パーセントだ。大都市の高層ビルが
並んでいるところも商業地域だけど、そういうところでは1000
パーセント以上の容積率が指定されている。それと、最近法律が
改正されて、商業地域の容積率は、最低200パーセントから決め
られることになった。

「じゃ、変えればいい。」

いや、変えるのは簡単ではないし、このマンションには間に合わ
ない。

「ほかに、質問はありますか？」

「では、新聞の見出しつけます。どうしようか？」

「酒蔵の町にマンション」

「大きなマンションにみんな不安」

「みんな不安、でも市は「合法」」

「マンションか、町並みか」

「どれにしようか？」

「記事を書いてからあとでつける。」

「ではそうします。」

町じゅうが大さわぎ

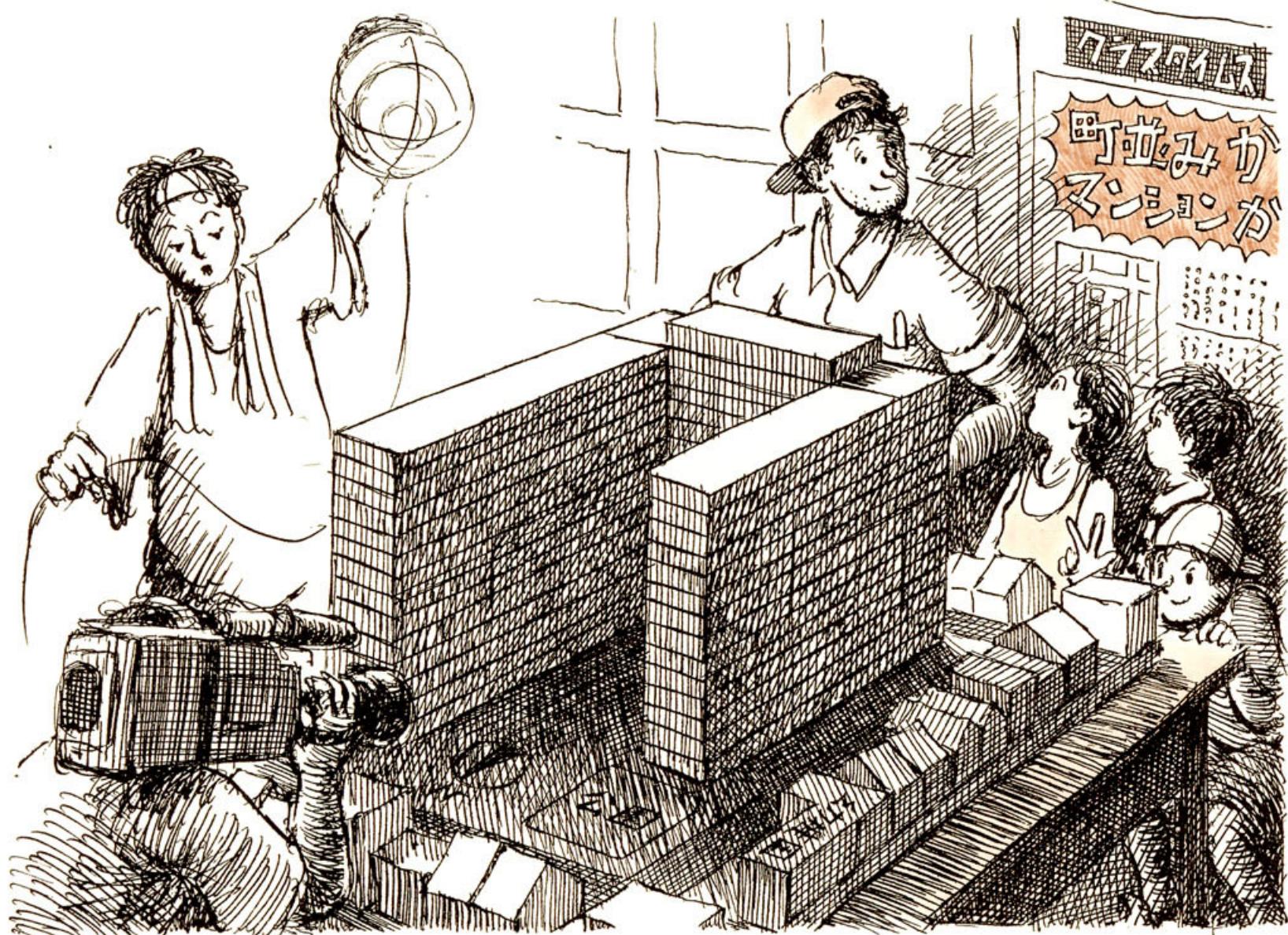
テレビの取材

「いつ放送するんですか？」

「あしたの夕方のニュースだ。」

「なぜ、ぼくたちの模型がニュースになるんですか？」

「残念ながら、君たちの模型がニュースになるんじゃない。あ
した、地域の人たちが、集めたマンション反対の署名を市長に届



けるんだ。そのニュースとあわせて、「町並みか、マンションか」というちよいとした特集を組む。この模型はちょうどいい。なにしろ、テレビはビジュアルが命だからね。」

「その特集のタイトルは、ぼくたちの新聞の見出しと同じだ。」

「えっ？ 新聞ってどれだい？」

「かべにはってある。」

「どれどれ、学級新聞？ ほんとだ、同じタイトルだ。小学生と同じタイトルをつけるとは。おれたちの発想が貧困なのか、それとも子どもたちが優秀なのか。」

「おじさん、何をぶつぶつ言っているの？」

「いや、なんでもない。きみたち、これはよくできた新聞だね。カメラさん、この新聞もとっておこう。ところで、なんで君たちは、模型を作ったり、新聞を作ったり、この問題に熱心なの？」

「遊び場が急に閉じられたから。」

「サッカーの練習ができなくなってしまった。」

「それだけじゃないよ、まわりの人も困っていた。」

「ゆかりちゃんちも日かけになる。」

「幼稚園もだよ。」

「日当たりだけが問題じゃないんだ。町並みが問題なんだ。」

「だけど法律には違反していないんだって。おじさん知った？」

「知ってたとも。だからこうして取材している。…そうそう、南の方から太陽みたいに光を当てて、影になったところをアップでとる。いいぞいいぞ。」

「模型を作るのにどのくらいかかった？」